

## とちぎ農産物マーケティング協会 月刊情報（22年8月号）vol.35

### ◆ 野菜部会全体会議の開催

7月15日(木)、JA会館で野菜部会全体会議を開催した。平成22年度の野菜振興方策と消費拡大に向けた取り組みを行うための事業計画と予算を協議した。また、「野菜の最新動向と産地の基本的な課題」についての研修も行われ、加工・業務用取引のポイントの説明があった。

### ◆ とちぎまるごと農産物フェア（真夏のフードフェスティバル）

7月15日(木)～21日(水)東武宇都宮百貨店地下1F、7月29日(木)～8月4日(水)同大田原店において、とちぎまるごと農産物フェアと題し、フードフェスティバル「地産地消フェア」を開催した。本県の主要農産物を集め、とちぎ和牛や今が旬の巨峰など青果物の販売を行った。また、15日(木)には宇都宮店、31日(土)には大田原店で、フレッシュメイトによる試食販売を行い、県内の消費者に県産農産物の認知度向上とPRを図った。



### ◆ 梨若手生産者現地セミナーの開催



7月20日(火)、次世代を担う経営者の育成のため、若手の梨生産者を対象に、現地セミナーを開催した。若手を対象とした企画は初めて。各JA部会・関係者73名が参加し、芳賀町、高根沢町、那須烏山市、大田原市の4箇所の圃場で、栽培技術や産地情報などの意見交換が熱心に行われた。

### ◆ 栃木県花き生産者大会の開催

7月23日(金)、宇都宮市内で、生産者、JA、関係者140名が参加し、栃木県花き生産者大会を開催した。

大会では、各種共進会等の表彰式のあと、静岡県JAトピア浜松PCガーベラ部会の鈴木誠氏(生産者)による講演を行った。知名度をあげるためには、まず自分で行動し努力することが必要。“花屋の店頭こそが情報の塊”と花屋さんとの交流の重要性を訴えた。



### ◆ とちぎ農産物クチコミ隊「草刈りとニンジンの種まき体験」

7月24日(土)、栃木市にて、とちぎ農産物クチコミ隊「草刈りとニンジンの種まき体験」を開催した。今回の参加者は、前回、田植えと苗植え体験に参加したクチコミ隊の親子(7組20名)。

落花生・サツマイモの苗を定植した畑の草刈り、また、参加者特典のにんじんの種まきを行った。日頃の生産者の苦労を身をもって体験することで、農業への理解促進に繋がったようだ。



## ◆ 第55回全国野菜園芸技術研究会新潟大会に参加

7月27日(火)～28日(水)、新潟市で第55回全国野菜園芸技術研究会新潟大会が開催された。「環境にやさしい土づくり」をテーマに、全国から600人(本県からは61人)の生産者やJA関係者が参加し、基調講演や事例発表など熱心に聞きいった。

## ◆ リニューアルされた食堂で地産地消特別メニューを提供



8月2日(月)、キャノン宇都宮工場の食堂がリニューアルオープンし、4日(水)まで地産地消の特別メニューが出された。「とちぎ霧降高原牛」「那須鶏」「ゆめポーク」が限定日替わりで、岩舟町「巨峰」がデザート、米は「なすひかり」、サラダバーは県産野菜がメイン。一新された食堂に利用者はとまどいを見せたが、その豊富で美味しいようなメニューは非常に好評であった。

## ◆ いちご王国グランプリ表彰式・推進会議を開催

8月6日(金)、宇都宮市内で第4回いちご王国グランプリ表彰式を開催した。今回出展された12点のうち、大賞に輝いたのは宇都宮市の芝崎理子さん。農林水産大臣賞を併せて受賞した。

いちご王国推進会議では、(株)ユリヨーの吉田真己商品本部長が「いちごを巡る実需者の現況と栃木県に期待すること」と題して講演し、業務用いちごに求められる条件などに参加者たちは興味深く聴いていた。



### 今後の予定

8月10日(火) トマトグランプリ表彰式・産地改革研究会(県庁東館講堂)

8月11日(水) こんにゃく作況調査

8月12日(木)～16日(月) Food Expo 2010(香港)

8月17日(火) 栃木県食品商談会 in 香港

8月24日(火) なつおとめ現地検討会(JAかみつが管内)

9月3日(金) 輸出米「なすひかり」収穫式(JAしおのや)

(社)とちぎ農産物マーケティング協会(平成22年8月発送)

TEL 028-626-2150 FAX 028-643-7853

<http://www.tochigipower.com/>